

環境アセスメント学会2017年山梨大会における特別集会
「グリーン・リージョンと生物多様性オフセット・バンキング
-生物多様性分野の環境アセスメントに対する可能性と期待」

■企画趣旨

「グリーン・リージョン、緑の地域 (Green Region)」とは、生態的な持続性 (Ecological Sustainability) を実現している地域のことです。このような地域では、我々ヒトやその他すべての生物の生存基盤である自然、生態系、ハビタットに対する「新たな (追加的な)」マイナス影響とプラス影響がバランス良く釣り合っています。今回のテーマは、「グリーン・リージョン」の形成において最も重要な役割を担うべき環境アセスメントの可能性についてです。

生物多様性分野の環境アセスメントとミティゲーションについては、ミティゲーション・ヒエラルキー、ノーネットロス、代償ミティゲーション (生物多様性オフセット)、ミティゲーション・バンキング (生物多様性バンキング)、HEP などの定量評価手法に代表される新しい概念や手法が紹介され、開発事業における生物多様性保全の在り方も少しずつ変化しています。

一方、地方では里山や里海などの放置された場所が増加し続けておりこれらの維持管理や、都市域に更なる導入が期待されるグリーンインフラや生物多様性配慮型緑地やその維持管理においては、生物多様性オフセットや In-Lieu-Fee を含むバンキングの可能性を認識する必要があります。

このような中、環境省はこの春に生物多様性オフセット関連事例を集めた報告書を公表し、この分野の議論の盛り上がりには大きな期待を寄せています。本特別集会は、行政官、内外の環境コンサルタント、法律家、デベロッパー、研究者など各方面から関係者をお招きし、グリーン・リージョン形成における環境アセスメントとミティゲーションの役割について、特に生物多様性オフセットや生物多様性バンキングの可能性に着目して議論するものです。環境アセスメント関係者はもちろん都市緑化や里山生態系保全に興味がある皆様の積極的な参加も歓迎します。

■進 行

・司会進行： 田中 章 (本学会常務理事・東京都市大学)

1) 趣旨説明

「本特別集会の趣旨：グリーン・リージョンと生物多様性オフセット・バンキング」

田中 章 (本学会常務理事・東京都市大学)

2) 話題提供

- (1) 「『環境影響評価における生物多様性保全に関する参考事例集』の紹介」
熊倉 基之 (環境省総合環境政策局環境影響評価課課長)
- (2) 「山梨県の環境影響評価制度と生物多様性オフセット事例」
古屋 敏彦 (山梨県森林環境部大気水質保全課課長)
- (3) 「法律家から見たアメリカの生物多様性オフセット・バンキングの動向」
若井 英樹 (日弁連公害環境委員会委員・虎の門法律事務所 弁護士)
- (4) 「生物多様性オフセットの導入に関するニーズ調査と千葉県での実証研究」
新井 聖司 ((一社)日本環境アセスメント協会自然環境影響評価技法研究会・大日本コンサルタント(株))

3) コメンテータからの意見

- (1) 「民間デベロッパーからみた課題」
高田 秀之 (東急不動産(株))
- (2) 「国際環境コンサルからみた動向」
坂口 学 (イー・アール・エム日本(株))
- (3) 「グリーンインフラから見た期待」
舛田 陽介 (三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株))

4) パネルディスカッション・質疑応答・まとめ